| Sub Title The bibliographical description of Western medieval manuscript leaves 松田内、隆美(Matsuda, Takami) Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2020 Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.) JaLC DOI Abstract 16 世紀初頭までにヨーロッパで制作された写本の多くは、零菓(single leaf)や断片のかたちで残されている。零菓について可能な限り正確な書話を作成の少なさゆえに困難を伴う。本研究では、慶應義塾図書館が所蔵する9~16世紀の零菓類約298点を対象として調査、記述を行った。その結果、慶應義塾図書館が所蔵する9~16世紀の零菓類約298点を対象として調査、記述を行った。その結果、慶應義塾図書館が所蔵する9~16世紀の零菓類約298点を対象として調査、記述を行った。その結果、慶應義塾図書館の零菓いくつかの興味深い事実や傾向が観察された。零菓の大半は古書店を通じて図書館に収蔵されているが、そのなかにはA、N、L、Munby(1913-74、ケンブリッジ大学キングズ・カレッジ図書館長)旧蔵の零菓業5点(170X@9@2、PI.1~35)、アメリカを代表する古書店Bernard M、Rossenthal (1920-2017)が編纂した西洋中世古書体学の零菓集(170X@9@18/1~127)、アメリカ人の蒐集家で書物破壊者(biblioclast)として悪名高いのtto F. Ege(1888 - 1951)が作成した繁定セット(170X@61@10@1-10)のように、中世写本について専門的知識を持った旧蔵者が編を対していて、比較的入手しやすいからに他ならない。また、今回の調査により、国内外の他の図書館(たとえば国立西洋美術館の旧内藤コレクション、ニュージーランドのDunedin Public Library が所蔵している零菓類のなかに、同一写本の別葉が見つかった。ひとつの写本から複数の零菓が同時期に複数のルートで販売されたことを裏付けるとともに、同一写本の別様が見つかった。ひとつの写本から複数の零菓が同時期に複数のルートで販売されたことを裏付けるともに、同一写本の別様が見つかった。ひとつの写本が自複数の零菓が同時期に複数のルートで販売されたことを裏付けるとともに、同一写本の別様が見つかった。ひとつの写本が自複数の零菓が同時期に複数のルートで販売されたことを裏付けるともに、同一写本の別様が見つかった。ひとつの写本が自複数の零菓が同時期に複数のルートで販売されたことを裏付けるともに、同一写本の別様が見つかった。ひとつの写本が自複数の零菓が同時期に複数のルートで販売されたことを裏が同様に複数のルートで販売されたことを裏が付ければ、もとの写本をより正確に再構成することが可能となる。調査結果は、『究極の質感(マテリアリティ)・西洋中世写本の開き、第31回慶應義塾図書館貴重書展示会図録・中述は「中述では「中述をとして、同意の表述では、「中述をとして、「中述をして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、「中述をとして、 | · | tory of Academic resouces | | | | |
|--|------------------|--|--|--|--|--|
| Author 松田、隆美(Matsuda, Takami) Publisation year 2020 Jutite 学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.) Abstract 16 世紀初頭までにヨーロッパで制作された写本の多くは、零葉(single leaf)や断片のかたちで残されている。零葉について可能な限り正確な書誌を作成することは、中世写本文化の全体像を知る上で極めて重要がが、常葉の同定はしばしば、情報の少なさゆえに困難を伴う。本研究では、慶應義数回書館が開減する9~16 世紀の零葉類約298点を対象として開塞、記述を行った。その結果、慶應義数回書館の常葉以くつかの興味深い事実や傾向が観察された。零葉の大半は古書店を通じて図書を記して製きない。というというというというというというというというというというというというというと | Title | 西洋中世写本零葉の書誌学的記述のための実践的研究 | | | | |
| Publisher 慶應義塾大学 Publication year Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.) Jal.C DOI Abstract 16 世紀初頭までにコーワッパで制作された写本の多くは、零葉(single leaf)や断片のかたちで残されている。零葉について可能な限り正確な書誌を作成することは、中世写本文化の全体像を知る上で極めて重要だが、零葉の同定はしばしば、情報の少なさゆえに困難を伴う。本研究では、慶應義塾図書館が所識する9 - 1.6 世紀の零業類約298点を対象として調査、記述を行った。その結果、慶應義塾図書館が再識する9 - 1.6 世紀の零業類約298点を対象として調査、記述を行った。その結果、慶應義塾図書館が事業して図書館に収蔵されているが、そのなかにはA、N、L、Munby (1913-74 インブリッシ大学キングズ・カレッジ図書館長) 旧蔵の零葉35点(170X@9@2, PL1~35)、アメリカを代表する古書店を画ではM、Rosenthal (1920-2017)が編纂した西洋中世古書体学の零葉集(170X@9@18/1 - 127)、アメリカ人の蒐集家で書物報音(biblioclast)として思考高いの15 に 手に負に1888 - 1951)が作成して業定セット(170X@16/2010@10-2017)が編纂した西洋中世古書体学の零葉集(170X@9@2 18/1 - 127)、アメリカ人の効果家で書物報音(biblioclast)として思考高いの15 に 手に負に1888 - 1951)が作成したマネセット(170X@16/2010@10-2017)が編纂した西洋中世古書体学の零章集(170X@9@2 18/1 - 127)、アメリカ人の力を集まの一方で、収費品の約半数は個別に購入されている。それらは、15世紀ブランスで制作された時讀書や典礼写本が多いが、それはこのジャンルの写本が相対的に多く現存していて、比較的み手しや守いからに他ならない。また、今回の調査により、国内外の他の図書館(たとえば国立西洋美術館の旧内第コレジョン、ニュージーランドのDunedin Public Library が所蔵している零業類のないに、同一写本の別業が見かった。ひとつの写本から複数の零葉が同時期に複数のルートで販売されたことを裏付けるとともに、同回録に、(度を義型の書館費重書展示会図録(度奏数図書館、2019年10月)に反映させるともに、同回録に、(度應義型図書館費重書展示会図録(度奏数図書館、2019年10月)に反映させるともに、同回録に、(使應義型図書館所述を1842年では1842年 | Sub Title | The bibliographical description of Western medieval manuscript leaves | | | | |
| Publication year 2020 Jitite 学事振興資金研究成果実績報告書(2019.) Jitite 学事振興資金研究成果実績報告書(2019.) Abstract 16 世紀初頭までにヨーロッパで制作された写本の多くは、零葉(single leaf)や断片のかたちで残されている。零葉について可能な限り正確な書誌を作成することは、中世写本文化の全体像を知る上で極めて重要だが、零葉の同立はしばしば、情報の少なさゆえに問題を決っ、本研究では、慶應義塾図書館が所識する9~16 世紀の零葉類約298点を対象として調査、記述を行った。その結果、废應義塾図書館の零葉いくつかの興味深い事実や傾向が観察された。零葉の大半は古書店を通じて図書館に収蔵されているが、そのなかにはA、N.L. Munby(1913-74、ケンブリッジ大学キングズ・カレッジ図書館長》目に蔵の零葉35点(170X@9@2)、Pl.1・35)、アメリカを代表する古書店Bemard M Rosenthal (1920-2017)が編纂した西洋中世古書体学の零葉葉(170X@9@2) (18/1 - 127)、アメリカ人の蒐集家で書物破壊者(biblicotlast)として果会高いいではF見的刻識を持った旧蔵者が編纂したコレクションが含まれる一方で、収蔵品の約半数は個別に購入されている。それらは、15世紀フランスで制作された時禱書や典札「写本がらない。また、今回の調査により、国内外の他の図書館(たとえば国立西洋美術館の旧内藤コレクション、ユージーランドのDunedin Public Library)が所蔵している零葉類のなかに、同一写本の別葉が見つかった。ひとつの写本がら複数の零葉が同時期に複数のルートで販売されたことを裏付けるとともに、同一写本の零葉が多ければ、もとの写本をより正確に再構成することが可能となる。別書結果は、「彩極の質感(マテリアリティ) - 西洋中世写本の操き。第31回慶應義塾図書館費重書展示会図録(履應義塾図書館、2019年10月)に反映させるとともに、同図録に、(慶應義塾図書館所蔵両洋中世写本一覧リスト)としてまとめている。Many of the Western manuscripts produced by the early 16th century, are extant only in single leaves however involve difficulties due to apparent lack of information、298 single leaves however involve difficulties due to apparent lack of information、298 single leaves however involve difficulties due to apparent lack of information、298 single leaves however involve difficulties due to apparent lack of information、298 single leaves however involve difficulties due to apparent lack of information 298 single leaves nate fragments in Keio University Library have been researched and described as far as possible. The research led to the following observations. Most of leaves were acquired through antiquarian bookdealers. These include 35 leaves in the collection of Dr.A. N. L. Munby (170X@)@2, Pl.1-35), Bernard M. Rosenthal, "Latin Paleography and Diplomatics: Part : Paleography (170X@)@2, Pl.1-35), Bernard M. Rosenthal, "Latin Paleography and Diplomatics: Part : Paleography (170X@)@2, Pl.1-35), Bernard M. Rosenthal, "Latin Paleography and Diplomatics: Part : Paleography (170X@)@2 (Pl.1-35), Berna | Author | | | | | |
| Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.) JalC DOI Abstract 16 世紀初頭までにヨーロッパで制作された写本の多くは、零葉(single leaf)や断片のかたちで残されている。零葉について可能な限り正確な書誌を作成することは、中世写本文化の全体像を知る上で極めて重要だが、零葉の同定はしばしば、情報の少なさゆえに困難を伴う。本研究では、慶應義数図書館が高する9~16 世紀の零葉類約298点を対象として問意。配述を行った。その結果、慶應義数図書館が高する9~16 世紀のマ素質約298点を対象として同意。配述を行った。その結果、慶應義数図書館ではて図書館に収蔵されているが、そのなかにはA N L Munby (1913-74、ケンブリッジ大学キングズ・カレッジ図書館長) 旧蔵の零葉35点(170X@9@2 P.P.1-35)、アメリカを代表する古書店Bernard M. Rosenthal (1920-2017)が編纂した西洋中世古書体学の零葉集(170X@9@18/14-127)、アメリカ人の黄葉家で書物破壊後(biblioclast)として悪名高いのto F. Ege(1888 – 1951)が作成した零葉セット(170X@6)(1001-10)のように、中世写本について専門的知識を持った旧蔵者が編纂したコレラションが含まれる一方で、知識品の約半数は個別別に購入されている。それらは、15世紀フランスで制作された時毒書や典礼写本があいが、それはこのジャンルの写本が相対的に多く現存していて、比較的入手しやすいからに他ならない。また、今回の調査により、国内外の他の図書館(たとえば国立西洋美術のなかに、同一写本の別葉が見らかった。ひとつの写本から複数の零葉が同時期に複数のルートで販売されたことを裏付けるとともに、同一写本の別葉が見らかった。ひとつの写本から複数の零業が同時期に複数のルートで販売されたことを裏付けるとともに、同一写本の別葉が見らいのでは、「中で極の質感(マテリアリティ)・西洋中世写本の場き。第31回慶應義数図書館費重書展示会図録(慶應義数図書館、2019年10月)に反映させるとともに、同回録に、(慶應義数図書館所蔵西洋中世写本一覧リスト)としてまとめている。Many of the Western manuscripts produced by the early 16th century, are extant only in single leaves and fragments. The identification of single leaves however involve difficulties due to apparent lack of information. 298 single leaves and fragments in Keio University Library have been researched and described as far as possible. The research led to the following observations. Most of leaves were acquired through antiquarian bookdealers. These include 35 leaves in the collection of Dr A. N. L. Munby (170X@9@2. P.I-1-35), Bernard M. Rosenthal (Latin Paleography and Diplomatics: Part I: Paleography (170X@9@2. P.I-1-35), Bernard M. Rosenthal (Latin Paleography and Diplomatics: Part I: Paleography (170X@9@2. P.I-1-35), Bernard M. Rosenthal (Latin Paleography and Digonatics: Part I: Paleography (170X@9@2. P.I-1-35), Bernard M. Rosenthal (Latin Paleography and Diplomatics: Part I: Paleography (170X@9@2. P.I-1-35), Bernard M. Rosenthal (Latin Paleography and Diplomatics: Part I: Paleography (170X@9@2. P.I-35), Bernard M. Rosenthal (Latin Paleography and Diplomatics: | Publisher | 慶應義塾大学 | | | | |
| Jalc DOI Abstract 16 世紀初頭までにヨーロッパで制作された写本の多くは、零葉(single leaf)や断片のかたちで残されている。零葉について可能な限り正確な書誌を作成することは、中世写本文化の全体像を知る上で極めて重要だが、零葉の同定はしばしば、情報の少なさゆえに困難を伴う。本研究では、慶應義数図書館が所蔵する9~16 世紀の零葉類約298点を対象として調査、記述を行った。その結果、慶應義数図書館の零葉いくつかの興味変い事実や傾向が観察された。零葉の大半は古書店を通じて図書館に収蔵されているが、そのなかにはA、N、L、Munby(1913-74、ケンブリッジ大学キングズ・カレッジ図書館長)旧蔵の零葉35点(170X@9@28、P.11-35)、アメリカを代表する古書店Bernard M、Rosenthal(1920-2017)が編纂した西洋中世古書体学の零葉集(170X@9@18/1-127)、アメリカ人の蒐集家で書物破壊者(biblioclast)として患名高いのtto F、Ege(1888~1951)が作成した零葉セット(170X@61金10@1-10)のように、中世写本について専門的知識を持った旧蔵者が編集したコレクションが含まれる一方で、収蔵品の約半数は個別に購入されている。それらは、15世紀フランスで制作された時禱書や典礼写本が多いが、それはこのジャンルの写本が相対的に多く現存していて、比較的入手しやのをない。また、今回の調査により、国内外の他の図書館(たとえば国立西洋美術館の旧内藤コレクション、ニュージーランドのDunedin Public Library)が所蔵している繁葉類のなかに、同一写本の別葉が見つかった。ひとつの写本から複数の零業行同時期に複数のルートで販売されたことを裏付けるとともに、同一写本の零葉が多ければ、もとの写本をより正確に再構成することが可能となる。選査結果は、『究極の質感(マテリアリティ)・西洋中世写本の輝き』第31回慶應義数図書館貴重書展示会図録(慶應義数図書館、2019年10月)に反映させるとともに、同図録に、(慶應義数図書館集団は下では、1970年の景 | Publication year | 2020 | | | | |
| Abstract 16 世紀初頭までにヨーロッパで制作された写本の多くは、零葉(single leaf)や断片のかたちで残されている。零葉について可能な限り正値な書誌を作成することは、中世写本文化の全体像を知る上で極めて重要だが、零葉の同定はしばしば、情報の少なさゆえに困難ら。本研究では、慶應義塾図書館が所蔵する9~16 世紀の零葉類約298点を対象として調査、記述を行った。その結果、慶應義塾図書館の零葉いくつかの興味深い事実や傾向が観察された。マ家葉の大半は古書店を通じて図書館に収蔵されているが、そのなかにはA、N、L、Munby(1913-74、ケンブリッジ大学キングズ・カレッジ図書館長)旧蔵の零葉芸気点(170X(奥)@22、PL1-35)、アメリカを代表する古書店Bernard M、Rosenthal (1920-2017)が編纂した西洋中世古書体学の零葉集(170X(奥)@18/1~127)、アメリカ人の蒐集家で書物破壊者(biblioclast)として悪名高いOtto F、Ege(1888 - 1951)が作成した零葉生り、(170X(@61@)10@1-10)のように、中世写本について専門的知識を持った旧蔵者が編纂した零葉セット(170X(@61@)10@1-10)のように、中世写本について専門的知識を持った旧蔵者が編纂した常文では、から、中世写本について専門的知識を持った旧蔵者が編纂した等文でが含まれる一方で、収蔵品のお外光を個別に購入されている。それらは、15世紀フランスで制作された時禱書や典礼写本が多いが、それはこのジャンルの写本が相対的に多く現存していて、比較的入手しやすいからに他ならない。また、今回の調査により、国内外の他の図書館(たとえば国立西洋美術館の旧内藤コレクション、ニュージーランドのDunedin Public Library)が所蔵している零葉類のなかに、同一写本の別葉が見つかった。ひとつの写本がも複数の零葉が同時期に複数のルートで歌されたことを裏付けるとともに、同一写本の零葉が多ければ、もとの写本をより正確に再構成することが可能となる。関査結果は、『究極の質感(マテリアリティ)・西洋中世写本の興き。第31回慶應義塾図書館貴重書展示会図録(慶應義塾図書館、2019年10月)に反映させるとともに、同図録に、(慶應義塾図書館育重書展示会図録(慶應義塾図書館)と10月年10月)に反映させるとともに、同図録に、(慶應義塾図書館所蔵西洋中世写本一覧リスト)としてまとめている。 Many of the Western manuscripts produced by the early 16th century, are extant only in single leaves and fragments. The identification of single leaves however involve difficulties due to apparent lack of information. 298 single leaves and fragments in Keio University Library have been researched and described as far as possible. The research led to the following observations. Most of leaves were acquired through antiquarian bookdealers. These include 35 leaves in the collection of Dr A. N. L. Munby (170X@)@(2) P.11-35)、Bernard M. Rosental, 3 leaves in the collection of Pr A. N. L. Munby (170X@)@(2) P.11-35)、Bernard M. Rosental, 1 Latin Paleography and Diplomatics: Part I: Paleography (170X@)@(2) P.11-35)、Bernard M. Rosental, 3 leaves in the research uncovered some cases of sister leaves in other domestic and foreign institutions, such as ex-Naito collection of the National Museum of Western Art (Tokyo) and Dunedin Public Library (NZ). Some of the leaves are d | Jtitle | 学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.) | | | | |
| れている。零葉について可能な限り正確な書誌を作成することは、中世写本文化の全体像を知る上で極めて重要だが、零葉の同定はしばしば、情報の少なさゆえに困難を伴う。本研究では、慶應義塾図書館が所蔵する9~16世紀の零葉類約298点を対象として調査、記述を行った。その結果、慶應義塾図書館の零葉いくつかの興味深い事実や傾向が観察された。零葉の大半は古書店を通じて図書館に収蔵されているが、そのなかにはA、N、L、Munby(1913-74、ケンブリッジ大学キングズ・カレッジ図書館長)旧蔵の零葉35点(170X@9@02、P.1.1~35)、アメリカを代表する古書店Bernard M、Rosenthal(1920-2017)が編集した西洋中世古書体学の零葉集(170X@9@18/1-127)、アメリカ人の蒐集家で書物破壊者(biblioclast)として悪名高いのtion F、Ege(1888 - 1951)が作成した零葉セット(170X@61@10@10g-1-10)のように、中世写本について専門的知識を持った日蔵者が編纂したコレクションが含まれる一方で、収蔵品の約半数は個別原購入されている。それらは、15世紀フランスで創作された時報・契札写本が多いが、それはこのジャンルの写本が相対的に多く現存していて、比較的入手しやすいからに他ならない。また、今回の調査により、国内外の他の図書館(たとえば国立西洋美術館の旧内藤コレクション、ニュージーランドのDunedin Public Library)が所蔵している零業が自由のなかた、同一写本の別葉が見らかった。ひとつの写本から複数の零業が同時期に複数のルートで販売されたことを裏付けるとともに、同一写本の零業が多ければ、もとの写本をより正確に再構成することが可能となる。 調査結果は、『究極の質感(マテリアリティ)・西洋中世写本の輝き。第31回慶應義塾図書館養重書展示会図録(慶應義塾図書館、2019年10月)に反映させるとともに、同図録に、(慶應義塾図書館所蔵西洋中世写本一覧リスト)としてまとめている。Many of the Western manuscripts produced by the early 16th century, are extant only in single leaves and fragments. The identification of single leaves however involve difficulties due to apparent lack of information. 298 single leaves and fragments in Keio University Library have been researched and described as far as possible. The research led to the following observations. Most of leaves were acquired through antiquarian bookdealers. These include 35 leaves in the collection of Dr A. N. L. Munby (170X@9@2、P.1-35), Bernard M. Rosenthal, "Latin Paleography and Diplomatics: Part I: Paleography (170X@9@18/1-127), and a collection of 10 leaves assembled by the American collector and biblioclast, Chof F. Ege (170X@61@10@7-1-10). Other than such collections assembled by specialists in medieval manuscripts, leaves were acquired individually. The largest group is leaves from late 15th-century Books of Hours and liturgical manuscripts. St. they are restant in the largest numbers, they are restant in Public Diabray (NZ). Some of the National Museum of Western Art (Tokyo) and Duredir Public Library (NZ). Some of the leaves are described in the catalogue of | JaLC DOI | | | | | |
| Genre Research Paper | | れている。零葉について可能な限り正確な書誌を作成することは、中世写本文化の全体像を知る上で極めて重要だが、零葉の同定はしばしば、情報の少なさゆえに困難を伴う。本研究では、慶應義塾図書館が所蔵する9~16世紀の零葉類約298点を対象として調査、記述を行った。その結果、慶應義塾図書館の零葉いくつかの興味深い事実や傾向が観察された。零葉の大半は古書店を通じて図書館に収蔵されているが、そのなかにはA、N、L、Munby(1913-74、ケンブリッジ大学キングズ・カレッジ図書館長)旧蔵の零葉35点(170X@9@2, Pl.1~35)、アメリカを代表する古書店Bernard M、Rosenthal(1920-2017)が編集した西洋中世古書体学の零葉集(170X@9@181/~127)、アメリカ人の蒐集家で書物破壊者(biblioclast)として悪名高いOtto F、Ege(1888~1951)が作成した零葉セット(170X@61@10@1~10)のように、中世写本について専門的知識を持った旧蔵者が編集したコレクションが含まれる一方で、収蔵品の約半数は個別に購入されている。それらは、アラシスで制作された時壽書や典礼写本がるいが、それはこのジャンルの写本が相対的に多く現存していて、比較的入手しやすいからに他ならない。また、今回の調査により、国内外の他の図書館(たとえば国立西洋美術館の旧内藤コレクション、ニュージーランドのDunedin Public Library)が所蔵している零葉類のなかに、同一写本の別葉が見つかった。ひとつの写本から複数の零葉が同時期に複数のルーケで販売されたことを裏付けるとともに、同一写本の零葉が多ければ、もとの写本をより正確に再構成することが可能となる。調査結果は、『究極の質感(マテリアリティ)-西洋中世写本の輝き』第31回慶應義塾図書館貴重書展示会図録(慶應義塾図書館、2019年10月)に反映させるとともに、同図録に、(慶應義塾図書館所蔵西洋中世写本一覧リスト)としてまとめている。Many of the Western manuscripts produced by the early 16th century, are extant only in single leaves and fragments. The identification of single leaves however involve difficulties due to apparent lack of information. 298 single leaves and fragments in Keio University Library have been researched and described as far as possible. The research led to the following observations. Most of leaves were acquired through antiquarian bookdealers. These include 35 leaves in the collection of Dr A. N. L. Munby (170X@9@2, Pl.1~35), Bernard M. Rosenthal, 'Latin Paleography and Diplomatics: Part I: Paleography (170X@9@18/1-127), and a collection of 10 leaves assembled by the American collector and biblioclast, Otto F. Ege (170X@61@10@1-10). Other than such collections assembled by specialists in medieval manuscripts, leaves were acquired individually. The largest group is leaves from late 15th-century Books of Hours and liturgical manuscripts. As they are extant in the largest numbers, they are relatively easy to acquire. The research uncovered some cases of sister leaves in other domestic and foreign institutions, such as ex-Naito collection of the National Museum of Western | | | | |
| | Notes | | | | | |
| URL https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190017 | Genre | Research Paper | | | | |
| | URL | | | | | |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2019 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

| 研究代表者 | 所属 | 文学部 | 職名 | 教授 | 補助額 | 300 (A | 4) 千円 |
|-------|----|-------|--------|----------------|-----|---------|-------|
| | 氏名 | 松田 隆美 | 氏名(英語) | Takami Matsuda | | 300 (A) | () TI |

研究課題 (日本語)

西洋中世写本零葉の書誌学的記述のための実践的研究

研究課題 (英訳)

The Bibliographical Description of Western Medieval Manuscript Leaves

1. 研究成果実績の概要

16 世紀初頭までにヨーロッパで制作された写本の多くは、零葉(single leaf)や断片のかたちで残されている。零葉について可能な限り正確な書誌を作成することは、中世写本文化の全体像を知る上で極めて重要だが、零葉の同定はしばしば、情報の少なさゆえに困難を伴う。本研究では、慶應義塾図書館が所蔵する9~16世紀の零葉類約 298 点を対象として調査、記述を行った。その結果、慶應義塾図書館の零葉いくつかの興味深い事実や傾向が観察された。

零葉の大半は古書店を通じて図書館に収蔵されているが、そのなかには A. N. L. Munby(1913-74、ケンブリッジ大学キングズ・カレッジ図書館長)旧蔵の零葉 35 点(170X@9@2, Pl.1~35)、アメリカを代表する古書店 Bernard M. Rosenthal (1920-2017)が編纂した西洋中世古書体学の零葉集(170X@9@18/1~127)、アメリカ人の蒐集家で書物破壊者(biblioclast)として悪名高い Otto F. Ege(1888 - 1951)が作成した零葉セット(170X@61@10@1-10)のように、中世写本について専門的知識を持った旧蔵者が編纂したコレクションが含まれる一方で、収蔵品の約半数は個別に購入されている。それらは、15 世紀フランスで制作された時禱書や典礼写本が多いが、それはこのジャンルの写本が相対的に多く現存していて、比較的入手しやすいからに他ならない。

また、今回の調査により、国内外の他の図書館(たとえば国立西洋美術館の旧内藤コレクション、ニュージーランドの Dunedin Public Library)が所蔵している零葉類のなかに、同一写本の別葉が見つかった。ひとつの写本から複数の零葉が同時期に複数のルートで販 売されたことを裏付けるとともに、同一写本の零葉が多ければ、もとの写本をより正確に再構成することが可能となる。

調査結果は、『究極の質感(マテリアリティ)ー西洋中世写本の輝き』第31回慶應義塾図書館貴重書展示会図録(慶應義塾図書館、 2019年10月)に反映させるとともに、同図録に、(慶應義塾図書館所蔵西洋中世写本一覧リスト)としてまとめている。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

Many of the Western manuscripts produced by the early 16th century, are extant only in single leaves and fragments. The identification of single leaves however involve difficulties due to apparent lack of information. 298 single leaves and fragments in Keio University Library have been researched and described as far as possible. The research led to the following observations.

Most of leaves were acquired through antiquarian bookdealers. These include 35 leaves in the collection of Dr A. N. L. Munby (170X@9@2, Pl.1-35), Bernard M. Rosenthal, 'Latin Paleography and Diplomatics: Part I: Paleography' (170X@9@18/1-127), and a collection of 10 leaves assembled by the American collector and biblioclast, Otto F. Ege (170X@61@10@1-10). Other than such collections assembled by specialists in medieval manuscripts, leaves were acquired individually. The largest group is leaves from late 15th-century Books of Hours and liturgical manuscripts. As they are extant in the largest numbers, they are relatively easy to acquire. The research uncovered some cases of sister leaves in other domestic and foreign institutions, such as ex-Naito collection of the National Museum of Western Art (Tokyo) and Dunedin Public Library (NZ). Some of the leaves are described in the catalogue of the exhibition entitled, 'The ultimate materiality: the splendour of Western medieval manuscripts' (October 2019) which also includes A Handlist of Western Medieval Manuscripts in Keio University Library, Tokyo'.

| 3. 本研究課題に関する発表 | | | | | | | | |
|-------------------------------------|-----------------|------------------------|--------------------------|--|--|--|--|--|
| 発表者氏名 (著者・講演者) 発表課題名 (著書名・演題) | | 発表学術誌名 (著書発行所・講演学会) | 学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月) | | | | | |
| 松田隆美 | 究極の質感ー西洋中世写本の輝き | 慶應義塾図書館 | 2019年10月 | | | | | |